

令和元年度第 1 回三重県障害者自立支援協議会 概要

日時 令和元年 10 月 29 日 (火) 13:30~16:00

場所 三重県勤労者福祉会館 5 階 第 2 教室

1 報告

(1) 医療的ケア児・者に係る取組状況について

医療的ケアを必要とする障がい児・者に係る県の取組状況について報告を行い、委員の皆様の情報共有とご意見をいただいた。

(委員から)

- ① 児だけではなくても取組の対象としているということは、大きな意味があると思う。小学校に入るときの壁もあるが、色々な制度が大きく変わる「18歳の壁」のところを引き続き意識して検討してもらいたい。
- ② 「動く医療的ケア児」の受け皿が三重県内に無い。全国的な課題だとは思いますが、動く医療的ケアのある方の受け皿のこともお願いしたい。
- ③ 医療的ケアは電気を使うものが多く、停電時の福祉事業所での受け皿や避難にも限界があるので、在宅で医療機器を使っている方の電源確保(発電機等)に係る支援も検討してもらえればと思う。

(2) 障がい者差別解消に係る取組状況について

今年 4 月に全面施行された「障がいの有無にかかわらず誰もが共に暮らしやすい三重県づくり条例」をふまえた県の取組状況について報告を行い、委員の皆様の情報共有とご意見をいただいた。

(委員から)

- ① 相談等について県境をまたいで対応するようなことはあるのか。
- ② 地域協議会では、相談の中であっせんまで繋がっている事例がなく、知的障がいの方など当事者にどのように周知するかなどについて議論があった。また、例えば特別支援学校への周知などの取組もしていければと思う。
- ③ 地域協議会が設置されていない所にも働きかけるとともに、市町の地域協議会からの情報等を共有しながら進めることが大事だと思う。
- ④ 専門相談員が配置されてから相談件数が増加しており、実際に該当するケースかどうかは別としても、相談窓口を設置し相談員を配置することで充実を図っていくことが改めて大事だと思う。

(3) 平成 30 年度提案事項の対応状況について

平成 30 年度第 2 回協議会において、精神障がい者地域移行・地域定着推進連絡会から提案のあった、入院中の精神障がい者のヘルパー体験利用について、近畿府県障害福祉主管課長会議を通じて国に要望したことについて報告を行い、委員の皆様と情報共有を行った。

2 議題

(1) 「みえ障がい者共生社会づくりプラン」の進捗状況について

今回の協議会では、「みえ障がい者共生社会づくりプラン（平成 30 年度～令和 2 年度）」に基づく、平成 30 年度における各施策の取組概要を報告するとともに、障がい者施策を取り巻く現状や課題を踏まえ、今後、施策の一層の推進に当たって取り組むべき方向性や、望むこと、考え方など、具体的なご意見と協議会として共有すべきことについてご意見をいただいた。

(委員から)

- ①外国籍の方が増えており、相談事例において日本語以外の言語で対応することはどれくらいあるのか。また、精神障がいの方の急性期の症状のときの相談対応についてガイドライン等はあるのか。
- ②虐待防止に関する取組の報告について、虐待対応だけではなく、社会福祉法、障害者総合支援法その他関係法律の権限についても適切に指導を行っていることが分かるようにしてほしい。また、都道府県障害者権利擁護センターの役割について、市町のサポート等の取組も入れてもらいたい。
- ③障がい者芸術文化祭のリーフレットについて、情報が少なく、新たに個人でエントリーをできるか不安に思った。また、毎年、金曜日、土曜日の開催であり、一般就労している人たちは会社を休まないといけない。一般就労している人たちにも、もう少し敷居の低い文化活動の場を考えてもらいたい。
- ④差別的取扱いの事例について、高齢化社会の中でも共通する内容が多い。一人暮らしや身寄りがいない方が人生の最期をどう迎えるか、まだまだ引き受けるところがなく大きな問題と思っている。地域包括ケアシステムが、高齢者のものだけではなく、すべての人に住みやすい地域になるよう、縦割りではなく横断的に考えてもらえればと思う。
- ⑤他県に旅行した際、鉄道運賃の割引の取扱いが事業者によって異なり困ったことがあった。県内でも割引の対応をもっと広めてほしいと思う。
- ⑥地域生活支援拠点等の整備に向けて、圏域の中でモデル的に要綱を作っている。今年度中に何らかの形ができるように取り組んでいる。
- ⑦障がいの理解と啓発を進める取組を行っているが、おもいやり駐車場のスペースに健常者の車が停めてあり、啓発が少し弱いのではと指摘をいただいている。県とも協力しながら啓発に取り組んでいければと思う。
- ⑧地域の協議会に出ているが、相談員や基幹相談支援センターの担当の方のスキルにすごく差がある。センター向けの研修を継続的にお願いしたい。
- ⑨障害者施設には電気設備が多く、停電になると非常に困難を強いられる。非常用発電機の整備補助について、今後どのような方向で考えているのか。
- ⑩高次脳機能障がいの方の就労支援で、一般企業よりも市町といった地方自治体での支援で苦勞することが多い。施策を推進する自治体の方が組織的に動けない実情がある。
- ⑪基幹相談支援センター向けの研修について、研修後に、例えば市町や事業所などに、センターに期待している業務はできているか判断してもらうことも必要ではと思う。

令和元年度 三重県障害者自立支援協議会委員

	氏名	区別		所属
1	吉村 賀世子	相談支援	精神	医療法人社団橋会 多度あやめ病院
2	中村 弘樹		3障害	障がい者総合相談支援センターそういん 障害者就業・生活支援センターそういん
3	堀口 佳子		知的	三重県自閉症・発達障害支援センター
4	高村 純子		身体	独立行政法人国立病院機構三重病院 重症心身障害児者相談支援
5	田中 孝典		身体	三重県身体障害者総合福祉センター
6	豊田 悦子	サービス事業者	身体・知的	社会福祉法人朋友 アクティブ鈴鹿
7	池田 修一		身体・知的	社会福祉法人聖マッテヤ会 障害者支援施設聖マッテヤ心豊苑
8	中川 義文		障害児	社会福祉法人鈴鹿市社会福祉協議会 鈴鹿市療育センター
9	水井 正幸		精神	社会福祉法人友睦 工房T&T
10	藤波 恵子	保健医療	-	公益社団法人三重県看護協会 ナーシングヒルなでしこ
11	越知 ひとみ	教育	-	特別支援学校教頭会 (杉の子・石薬師分校)
12	山本 容江	企業	-	ヤナセメディケアグループ
13	高尾 和宏	団体	-	小規模福祉施設協議会 (工房やまの風)
14	種村 奈代子	障がい者 当事者		ピアサポートみえ
15	伊藤 久美子			スタジオ・ピア
16	水谷 友香			特別支援学校 聖母の家学園
17	田中 敦	行政	-	四日市市健康福祉部障害福祉課
18	藤川 健		-	玉城町保健福祉課
19	長友 薫輝	学識	-	三重短期大学 生活科学科
20	市川 知律	その他	-	有限会社 With A Will

スーパーバイザー

	氏名	圏域	所 属
1	中村 弘樹	桑名員弁	障がい者総合相談支援センターそういん 障害者就業・生活支援センターそういん
2	田中 宏幸	四日市	田中宏幸社会福祉事務所
3	中川 義文	鈴鹿・亀山	鈴鹿市療育センター
4	市川 知律	津	有限会社 With A Will
5	天満 衛	伊勢志摩	ふくし・くらしグループ合同会社
6	市川 知恵子	伊賀	社会福祉法人名張育成会
7	森 徹雄	伊賀	社会福祉法人名張育成会

事務局

		所 属	電話番号
1		子ども・福祉部障がい福祉課 地域生活支援班	059-224-2215
2		子ども・福祉部障がい福祉課 サービス支援班	059-224-2266
3		子ども・福祉部障がい福祉課 社会参加班	059-224-2274
4		医療保健部健康づくり課 精神保健福祉班	059-224-2273
5		こころの健康センター	059-223-5243

令和元年度 第1回三重県障害者自立支援協議会事項書

日時：令和元年10月29日(火)13:30～16:00

場所：三重県勤労者福祉会館5階 第2教室

1 あいさつ

2 報告

(1) 医療的ケア児・者に係る取組状況について【資料1】

(2) 障がい者差別解消に係る取組状況について【資料2】

(3) 平成30年度提案事項の対応状況について【資料3】

3 議題

(1) 「みえ障がい者共生社会づくりプラン」の進捗状況について【資料4】

4 その他

三重県障害者施策推進協議会委員 様

第1回三重県障害者自立支援協議会【資料2】及び【資料4】については、時点修正した資料を本日の施策推進協議会で配付していますので、この資料中への添付は省略しています。

報告

医療的ケア児・者に係る取組状況について

医療的ケア児・者に係る 取組状況について

三重県子ども・福祉部 障がい福祉課

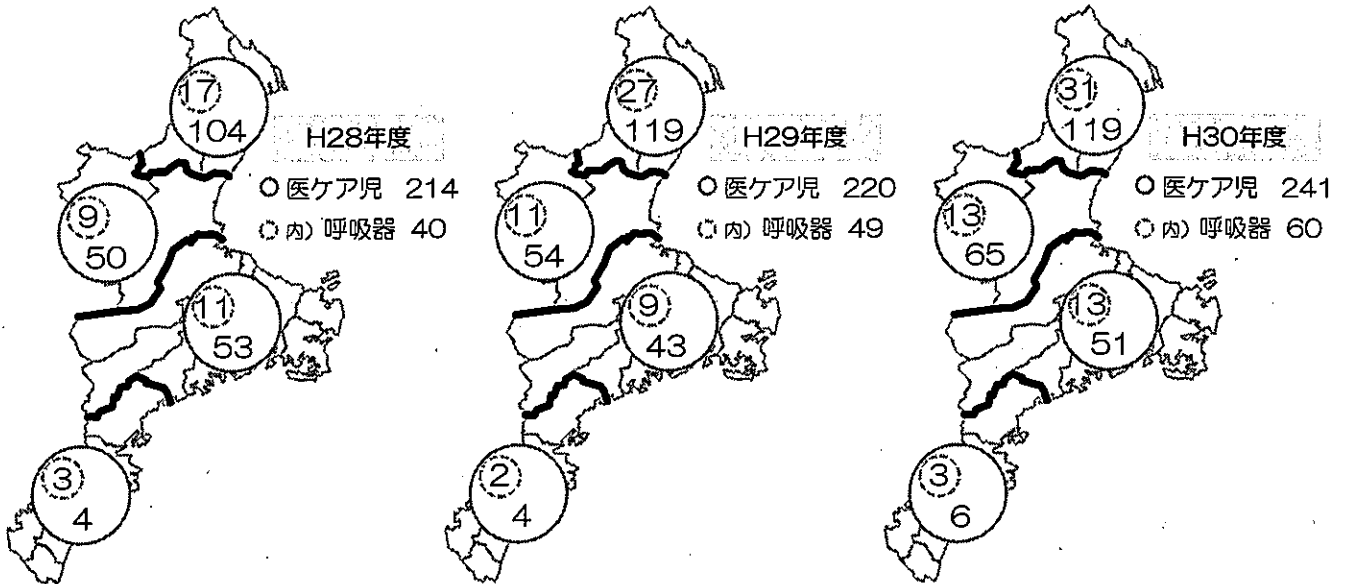


三重県の状況

児：18歳未満
者：18歳以上

人口	1,790,376人 (H30.10.1) (児273,772人、者1,516,604人)
身体障害者手帳所持者	72,630人 (H31.4.1) (児1,369人、者71,261人)
療育手帳所持者	14,973人 (H31.4.1) (児3,625人、者11,348人)
重症心身障がい児 (者)	909人 (H31.4.1) (児245人、者664人)
遷延性意識障がい児・者	1,180人 (H25調査)
医療的ケア児 (20歳未満)	241人 (H30調査) (うち人工呼吸器使用60人)

三重県在宅医療的ケア児実数調査 H28~30年度 推移



	就学前	就学児	19歳	計
総数	123	86	5	214
人工呼吸器	23	15	2	40
気管切開	39	24	3	66
胃瘻	24	38	4	62~66
経鼻経管栄養	47	14	4	61~65
在宅酸素	64	11	1	76

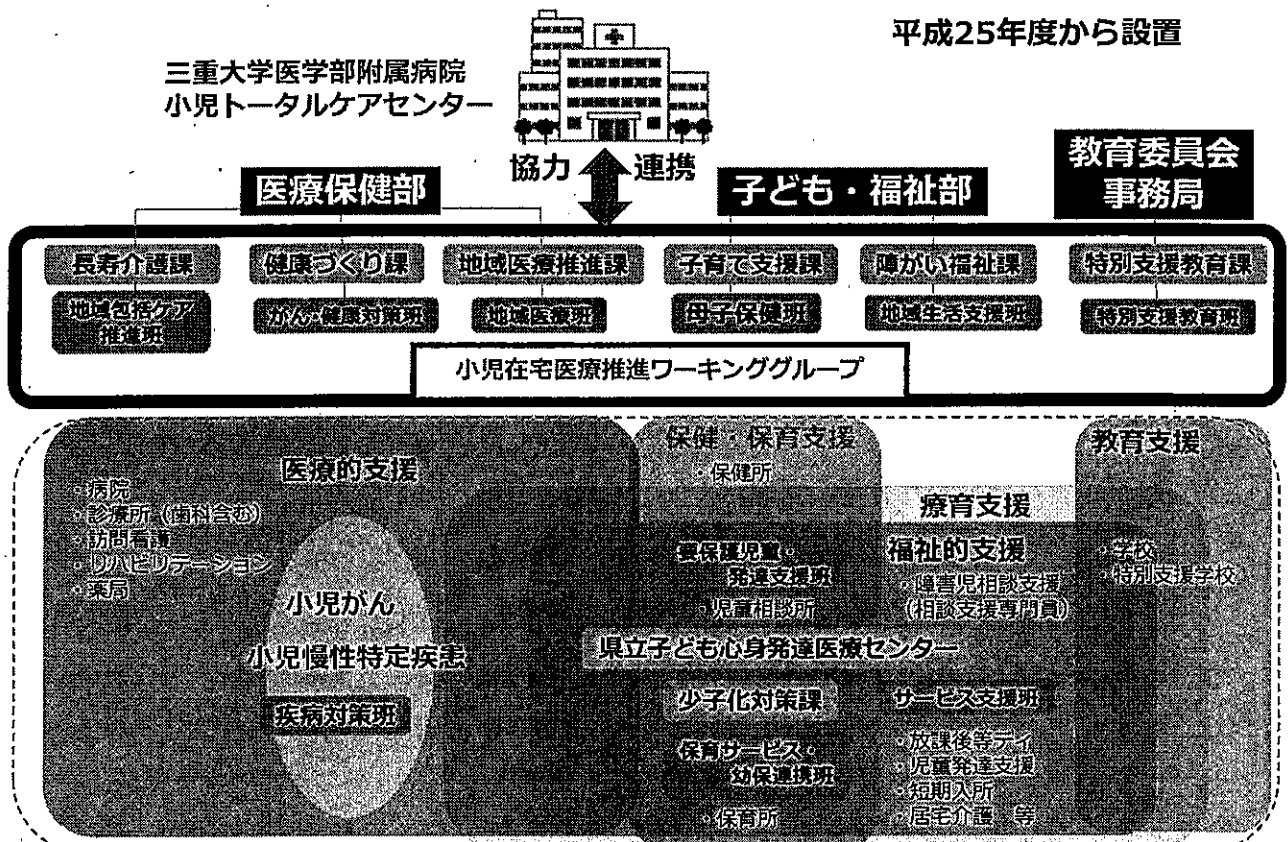
	就学前	就学児	19歳	計
総数	112	102	6	220
人工呼吸器	26	22	1	49
気管切開	30	31	1	62
胃瘻	25	40	4	69
経鼻経管栄養	38	20	0	58
在宅酸素	62	24	2	88

	就学前	就学児	19歳	計
総数	112	120	9	241
人工呼吸器	33	26	1	60
気管切開	29	40	0	69
胃瘻	22	44	1	67
経鼻経管栄養	31	17	1	49
在宅酸素	51	24	2	77

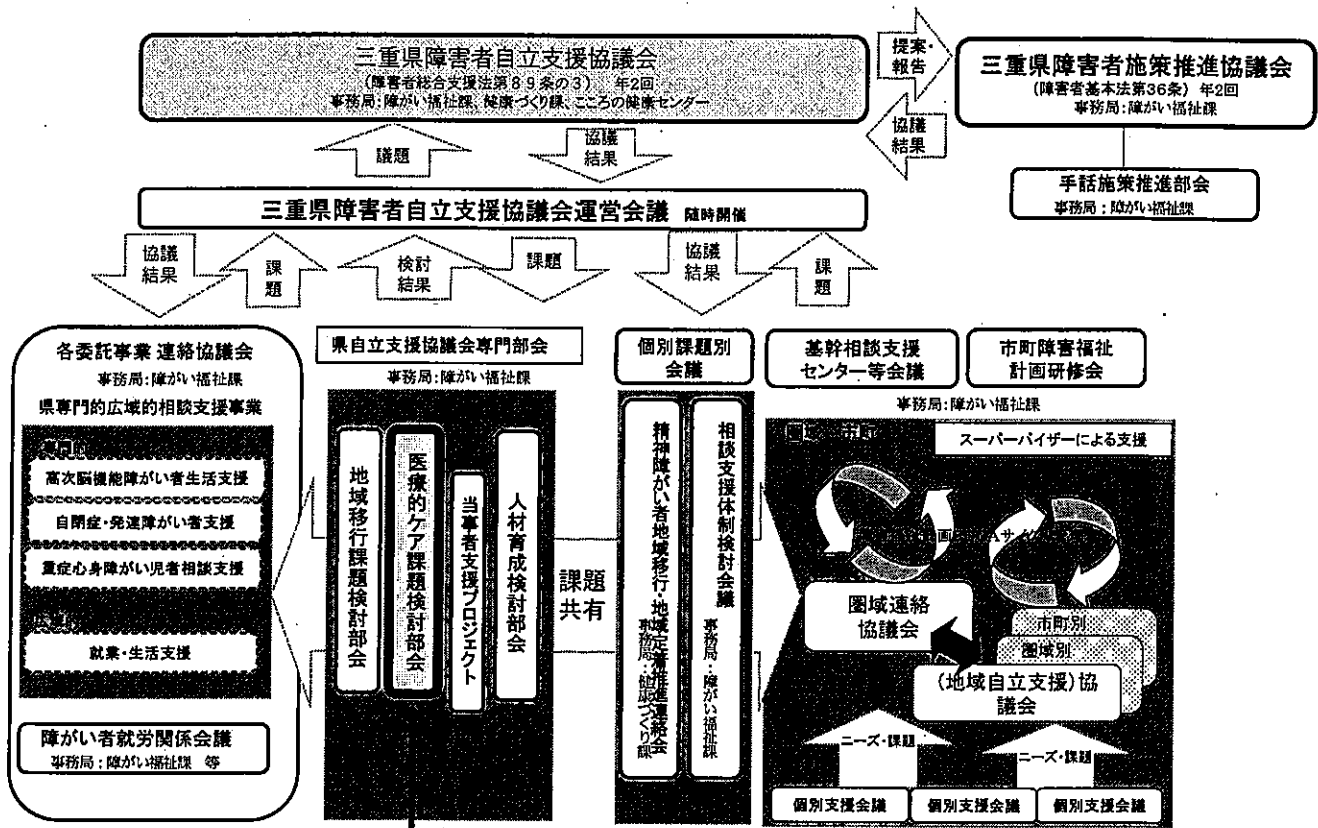
※三重大学医学部附属病院小児トータルケアセンター作成資料を一部改変

3

三重県庁内ワーキンググループ組織図 (令和元年度)



4

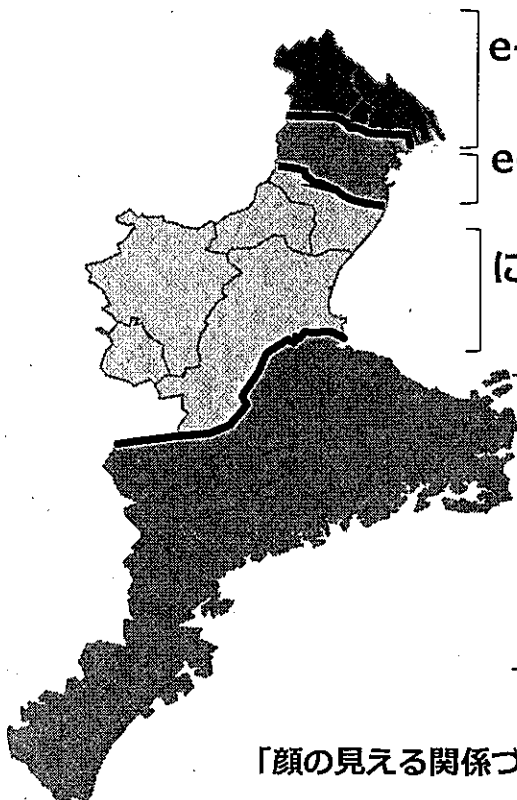


平成27年度から医療的ケア課題検討部会を設置

5

医療的ケア児・者 地域ネットワークの状況

「地域共生社会」の実現を目指した広域ネットワーク



e-ケアネットそういん 平成27年度～
 (桑名市・いなべ市・東員町・木曽岬町)
 (代表-小児科医、事務局-障がい者総合相談支援センターそういん)

e-ケアネットよっかいち 平成24年度～
 (四日市市、菟野町、川越町、朝日町)
 (代表-三重県立看護大学教授、事務局-なちゅらん四日市 相談支援事業所レーヴ)

にじいろネット 平成29年度～
 (津市、鈴鹿市、亀山市、伊賀市、名張市)
 (世話人-三重病院MSW、事務局-三重大学医学部附属病院小児トータルセンター)

みえる輪ネット 平成28年度～
 (松阪市、伊勢市、鳥羽市、志摩市、尾鷲市、熊野市、明和町、度会町、玉城町、大紀町、多気町、大台町、南伊勢町、紀北町、御浜町、紀宝町)
 (発起人-松阪市長・小児科医、世話人-松阪市子ども発達総合支援センター所長 事務局-済生会明和病院なでこ)

「顔の見える関係づくり」+「支援者支援」「地域づくり」

6

e-ケアネットよっかいち

令和元年9月1日現在

名称	e-ケアネットよっかいち
市町名	四日市市・菰野町・朝日町・川越町 ⇒四日市市、菰野町にてまず発足。 その後、朝日町、川越町が加わる
代表者名	三重県立看護大学教授
事務局	なちゅらん四日市 相談支援事業所レーヴ
コアメンバー	なちゅらん四日市 相談支援事業所レーヴ 特別支援学校北勢きらら学園 相談支援事業所陽だまり 相談支援事業所「ブルーム」 訪問看護ステーションいくわ 四日市市障害者自立生活支援センターかがやき 三重県立看護大学
発足年月	平成24年7月
規約の有無	有
年間活動回数	4回
主な活動内容	年1回の当事者ご家族を招いた講演会 年3回の事例検討会・研修会

ネットワークの概要

e-ケアネットそういん

令和元年9月1日現在

名称	e-ケアネットそういん
市町名	桑名市・いなべ市・東員町・木曽岬町
代表者	小児科医院長
事務局	障がい者総合相談支援センターそういん【基幹型】
コアメンバー	桑名市 障害福祉課 いなべ市 社会福祉課 東員町 地域福祉課 木曽岬町 福祉健康課 (アドバイザー) 三重県桑名保健所 e-ケアネットよっかいち 三重大学医学部附属病院小児トータルケアセンター
発足年月	平成27年8月
規約の有無	無
年間活動回数	4回
主な活動内容	多職種間での勉強会と事例検討

ネットワークの概要

みえる輪ネット

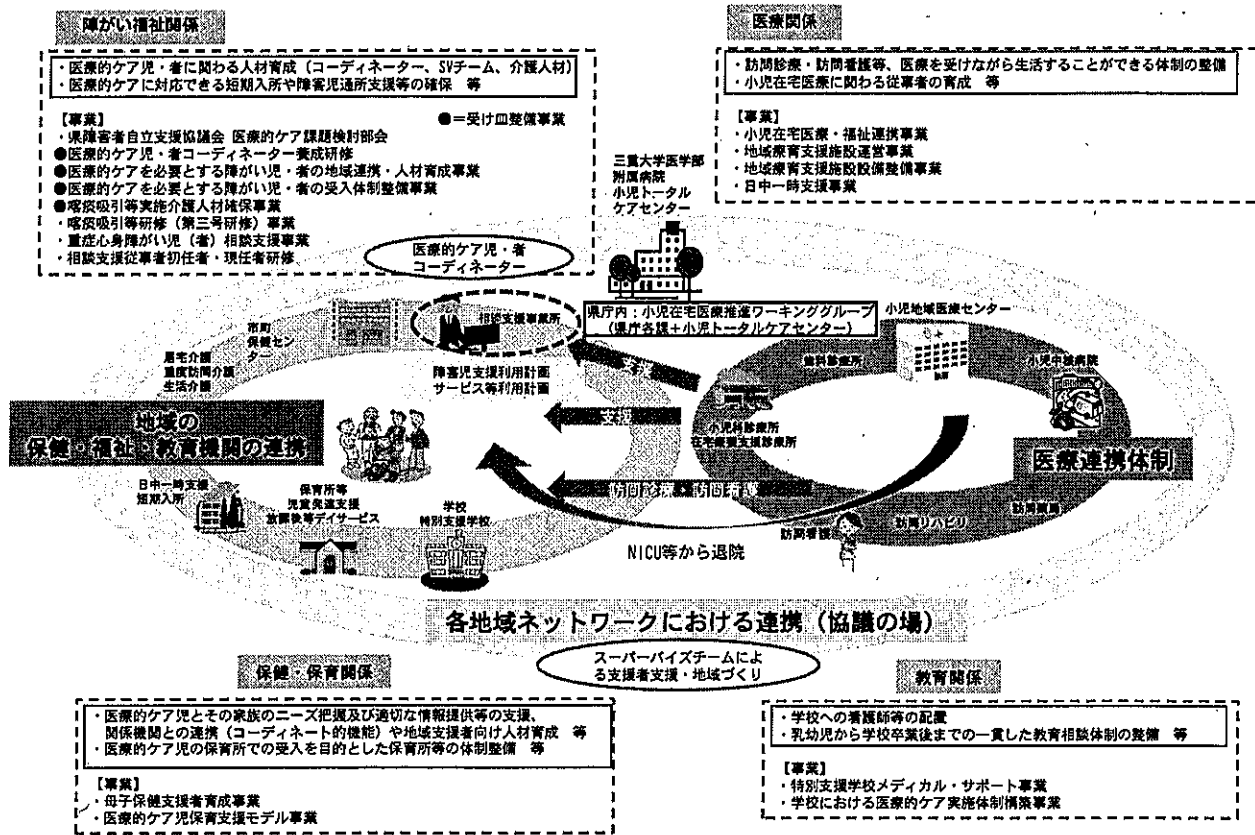
令和元年9月1日現在

ネットワークの概要	名称	三重県南部医療的ケア地域支援連携会議 みえる輪ネット		
	市町名	松阪市・多気町・明和町・玉城町・伊勢市・鳥羽市・志摩市・度会町・南伊勢町・大紀町・大台町・紀北町・尾鷲市・熊野市・御浜町・紀宝町		
	代表者名	(発起人) 松阪市長 (世話人) 三重大学医学部附属病院 小児トータルケアセンター長 松阪市子ども発達総合支援センター 所長		
	事務局	済生会明和病院 なでしこ		
	コアメンバー	松阪市 障がい福祉課 伊勢市 障がい福祉課 志摩市 地域福祉課 鳥羽市 健康福祉課 熊野市 熊野市福祉事務所 尾鷲市 福祉保健課	明和町 健康あゆみ課 多気町 健康福祉課 度会町 住民生活課 玉城町 保健福祉課 大台町 町民福祉課	大紀町 健康福祉課 南伊勢町 子育て・福祉課 御浜町 健康福祉課 紀北町 福祉保健課 紀宝町 福祉課
	発足年月	平成28年10月		
	規約の有無	有		
	年間活動回数	3回		
主な活動内容	「毎日の生活支援」と「万が一の時のための防災の取組」という2つの視点による事例検討を通して、地域の取組や課題の共有・協議を行う。			

にじいろネット

令和元年9月1日現在

ネットワークの概要	名称	にじいろネット		
	市町名	津市・鈴鹿市・亀山市・伊賀市・名張市		
	代表者名	(世話人) 独立行政法人国立病院機構 三重病院 医療社会事業専門職		
	事務局	三重大学医学部附属病院 小児トータルケアセンター		
	コアメンバー	津市 障がい福祉課 鈴鹿市 健康づくり課 亀山市 地域福祉課 伊賀市 障がい福祉課 名張市 子育て世代包括支援センター・地域包括支援センター 独立行政法人国立病院機構 三重病院 教育研修係長 独立行政法人国立病院機構 三重病院 小児科医師 三重大学医学部附属病院 小児トータルケアセンター		
	発足年月	平成30年3月		
	規約の有無	有		
	年間活動回数	2回		
主な活動内容	年2回の5市連携研究会			

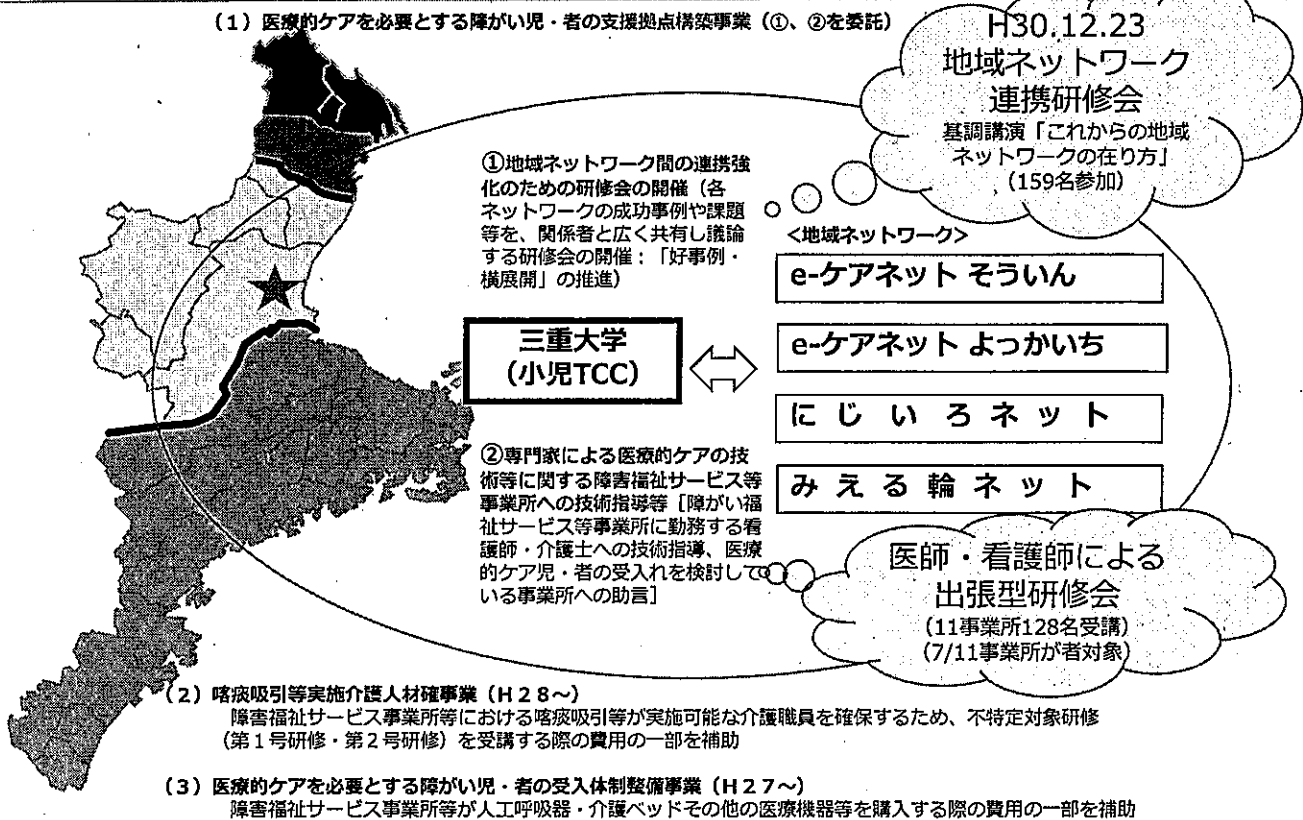


11

平成30年度 医療的ケアが必要な障がい児・者の受け皿整備事業

（※医療的ケアを必要とする重症心身障がい児・者、遷延性意識障がい児・者を含む）

障がい福祉課



12

令和元年度 医療的ケアが必要な障がい児・者の受け皿整備事業

(※医療的ケアを必要とする重症心身障がい児・者、遷延性意識障がい児・者を含む)

障がい福祉課

(1) 医療的ケアを必要とする障がい児・者の地域連携・人材育成事業【一部新規】

H31当初予算 3,200千円



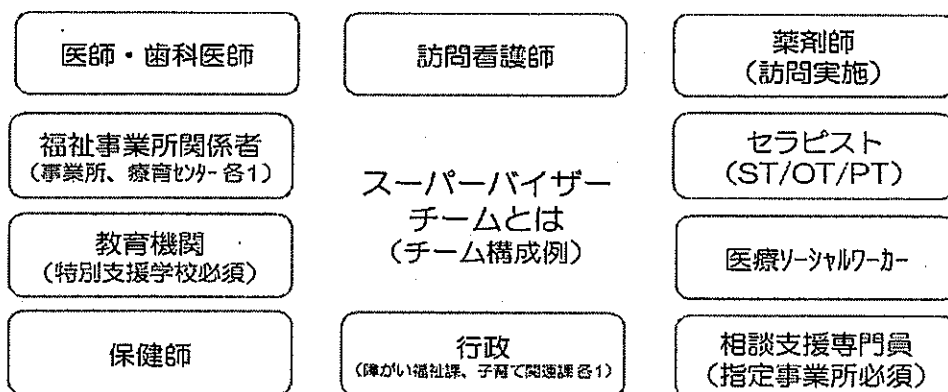
13

医療的ケア児・者の地域ネットワークにおけるスーパーバイズ機能構築

【スーパーバイズ機能】

※令和元年度からSV機能構築に向けた研修事業を実施中

各地域ネットワーク単位で組織するスーパーバイズチームが担う機能



(1) アドバイズ機能（支援者支援）

各地域において医療的ケア児・者の生活を支える関係職種（相談支援専門員、医師、訪問看護師、薬剤師、福祉事業所関係者等）に対する助言指導を行う。

(2) コンサルテーション機能（地域づくり）

医療的ケア児・者の地域における受け皿の拡充を目指し、地域の状況把握、地域で不足している事業所等の課題に対する助言指導を行う。

報告

障がい者差別解消に係る取組状況について

※資料添付は省略しています。

報告

平成 3 0 年度提案事項の対応状況について

平成30年度提案事項の対応状況について

令和元年10月29日

1 経緯

平成30年度第2回本協議会において、精神障がい者地域移行・地域定着推進連絡会から、次の内容について提案をいただき、県として国に要望していくこととしました。

(提案内容)

・「現行の障害者総合支援法では、精神科病院入院中（施設入所中）の方へのヘルパーの（体験）利用はできません。（報酬算定できないため）

そこで本連絡会では、入院・入所中の障がい者が退院・退所後に必要な社会資源を体験利用できるようにして、地域での生活をイメージしやすくし、
「(退院・退所の)意識のハードルを下げることを」を目指す取り組みとして、
「入院・入所中のヘルパー体験利用」の導入を提案します。」

(※別添ポンチ図参照)

2 対応状況

近畿府県障害福祉主管課長会議を通じて、次の内容について、厚生労働省に要望を行いました（令和元年9月12日付け「国の施策ならびに予算に関する要望書」）。

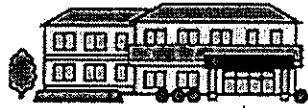
(要望書) (抜粋)

・「精神障がい者の地域移行支援について」

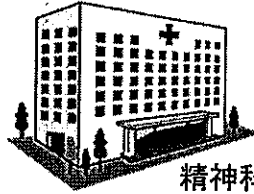
精神障がい者の地域移行を進める観点から、入院中の精神障がい者が自宅やアパートで外出・外泊訓練を実施する際に、障害福祉サービスのホームヘルプサービスが利用できるよう、例えば地域移行支援における障害福祉サービスの体験的な利用支援に居宅介護を含めるなど、弾力的な運用を可能としていただきたい。

「新たな社会資源の開発 ～入院・入所中の体験利用の拡大～」

現状



施設

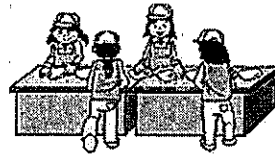


精神科病院

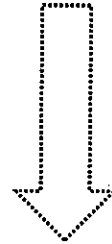
入院・入所中の
体験利用



グループホーム



就労事業所



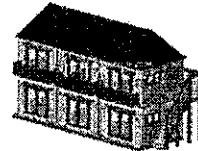
退院後



グループホーム



自宅

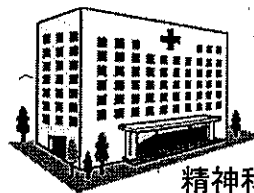


アパート

圏域での 取り組み



施設



精神科病院

入院・入所中
の体験利用

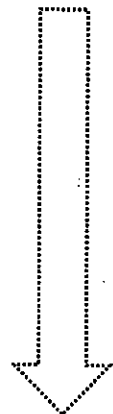
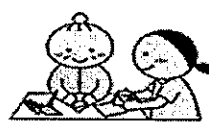


自宅

アパート



ヘルパーを利用して
外出・外泊体験



追加

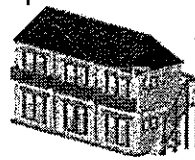
※ 本人(家族)が自宅・アパートでの地域生活をイメージできる機会を創出

退院後



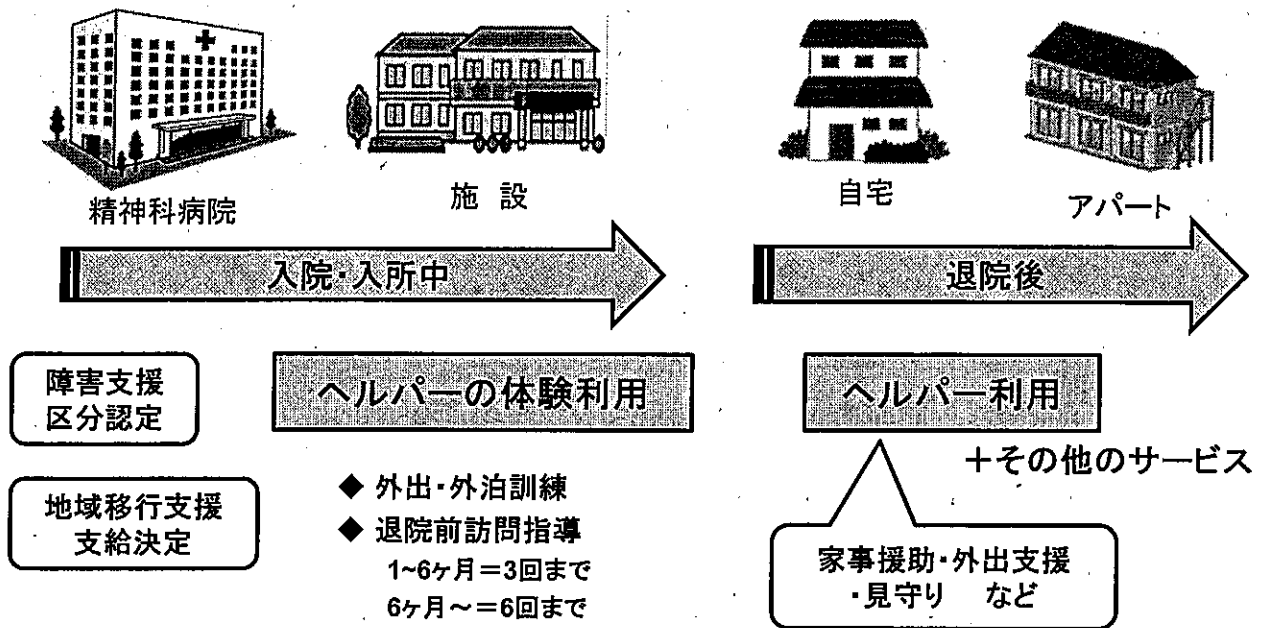
自宅

アパート



※ 自宅・アパートへの
退院・退所を基本と
する。

入院・入所中のヘルパー体験利用 イメージ図



(想定される効果)

- ◇ 本人(家族)が地域生活をイメージ、安心感を得る。
- ◇ 地域生活後の必要な支援の見極めが可能になる。
- ◇ 地域住民の不安解消、障がいの理解や啓発にも繋がる。
- ◇ 新たな社会資源の開発、さらなる取組の展開が見込める。 など

議題

「みえ障がい者共生社会づくりプラン」の
進捗状況について

※補足資料のみ添付しています。

地域生活支援拠点等の整備状況(平成31年4月1日時点)

市町名	整備状況		備えるのが特に困難な機能						整備類型				基幹相談 支援セン ターの設 置状況	
	2019年度末 までに整備 予定	2020年度に整備予定 (対応予定等を記載)	①相 対	②体 験の 機会 増	③緊 急時 の受 入れ 場	④専 門的 人材 の養 成・保 存	⑤地 域の 体制 づくり	多機能 施設 の整備 類型 面的 整備 型	多機能 施設 の整備 類型 面的 整備 型	多機能 施設 の整備 類型 面的 整備 型	その他 の整備 類型	未定		
桑名市		整備のため の時期が未 定のため。												○
いなべ市		令和2年度末までの設置を目指し、市自立支援協議 会地域生活支援拠点部会で協議を開始。	○	○	○	○	○	○						○
木曽岬町		未定												○
東員町														○
四日市市			○	○	○	○	○							○
菟野町			○	○	○	○								○
朝日町			○	○	○	○								○
川越町			○	○	○	○								○
鈴鹿市		自立支援協議会で整備に向けた協議を進めており、 2019年度予算化の予定。												○
亀山市			○	○	○	○								○
津市			○	○	○	○								○
松阪市		松阪・多気地域自立支援連絡協議会にて、検討を進 める。												○
多気町		未定												○
明和町		2020年度末までの設置を目標としているが、具体的 には未定。	○	○	○	○								○
大台町			○	○	○	○								○

(厚生労働省調査から作成)

市町名	整備状況		備えるのが特に困難な機能					圏域で整備する場 合	整備類型				基幹相談 支援セン ターの設 置状況
	2019年度末 までに整備 予定	2020年度に整備予定 (対応予定等を記載) その他 (具体的な現状を記載)	①相 談	②法 制の 整備 等	③緊 急時 の要 求に 対応 する 体制	④専 門的 人材 の充 て	⑤地 域の 特性 に 対応 する 体制		多機 能拠 点型 整備 型	面的 整備 型	多機能 拠点型 整備 型	その他 の整 備 類 型	
伊勢市		伊勢市障害者施策推進協議会及び自立支援部会、プロジェクトチームにて、検討中。	○	○	○				○				○
志摩市		○	○	○					○				○
鳥羽市		○	○						○				
玉城町		圏域で実施している。「圏域地域生活支援拠点整備検討ワーキンググループ」において、検討を進める。	○	○	○	○	○	伊勢志摩 圏域	○				
度会町		○	○	○		○		大紀町・ 南伊勢町	○				
大紀町		○	○			○			○				
南伊勢町		○	○	○		○						○	
伊賀市	○			○	○	○							○
名張市	○			○	○	○				○			○
尾鷲市		2019年度、紀北地域協議会で作業部会を立ち上げ予定。					○	紀北圏域					○
紀北町		○		○	○			紀北圏域					○
能野市		2018年度から協議会で協議開始。2020年度に整備予定。	○					紀南圏域					
御浜町		自立支援協議会において検討を行っている。		○	○	○	○	紀南圏域					○
紀宝町		○		○	○	○		紀南圏域					○

9 19 24 20 12 23 1 0 5 13

